

4 授業の記録

T₁ きょう勉強することは何だったかな。

C₀ 口々に言う。手紙を直す……。組み立て…

C₁ はい。あのうー 手紙を直すことです。

T₂ うん、そうね。(黒板にめあての表を貼布)

T₃ 矢巻さん、読んでごらん。

C₂ 自分の手紙を読み返し、よい手紙を書くため、組み立てをつくる。

T₄ そういうことの勉強やりますね。自分が前に書いた手紙を読み返して、もっといい手紙を書くように、組み立てを作っていく。この前、最初の手紙書いた時にね、ちょっと見せましたが、中沢さんは始めから、もう、こういうのを作って書いたのです。(T・P)

T₅ うすい? うすいの?

C₀ うすい。うすすぎる。

T₆ ほう、うすすぎる? (戸をしめる)

(子どもたち、T・Pを見る)

T₇ 最初から、こういうのを作ったのは、あのときは中沢さんだけだったんですが、……先生書くように言わなかったからね。中沢さん、なぜ、これ書いたったの。

C₃ はい、あの、書きつづけることを何にするか、迷わず書けるし、あと順序、まちがわずに書けるから、それを作りました。

T₈ なるほど、わかった? そういうことを考えてこれを最初に書いた、ね。こういうことがわかっていると、いま言ったように便利などところがあるね。それで、きょうは、これと同じものではないけれども、こういうものを自分の手紙をよみ返して作ってみよう、そういうことですね。

T₉ 書かなくてもいいよ。ノートに。前にみんな書いてあるはずだから。

T₁₀ 組み立てを作るんだが、この前、教科書の最初の単元のところに、「書くことをととのえて書こう」ね。ととのえて書かって、どういうことって言ったら、何人か言ってくれた。みんなのノートにも書いてあると思う。

本時のめあてを知らせる

ここでは、本時のめあてとして、二つのことを出している。自分の手紙を読み返すことと、組み立てをつくることである。二つとも作業の明示である。「よい手紙を書くため」と入れたのは、すでに手紙を書いている(組み立て表をつくらずに)ので、これを前時の学習事項をもとに読み返し、書き直す点を見つけ出させようと意図している。この事を通じて、3年生なりに、手紙を書く場合大切なこと、気をつけるべきことを確認させると同時に、組み立て表をつくらせ、事柄ごとにまとめて書く力を伸ばそうというのが、ねらいである。

○めあて(板書)

自分の手紙を読み返し、よい手紙を書くため
組み立てをつくる。

○中沢が自分なりにつくったメモ

知らせること だす人(大沼さん)

1. 学校の球ぎたいかいがあったことを書く
 - 女は、ぜんぶまけたこと
 - でも2位になったこと
 - 3組に男も女もかったこと
 2. 係がえをしたこと
 - 学級係になったこと
 - せんきよをしてきめたこと
 3. わくいさんという、女の子の転校生が来たこと
 - わくいさんが、せんきよで2位になったこと
- たずねること
- 1 なに係になったか
 - 2 福島より北海道のほうがいいかどうか
 - 3 どんなところにすんでいるか

中沢のメモをもとに、その有用性、形、なかみをとらえさせ、意欲を高めるよう配慮している。

手紙を書き直す観点を思い出させる

この分節は、次の分節への導入のためにある。つまり、前時に学習した内容をよみ直しの観点として、はっきりさせようとしている。

「ととのえて書く」とは、どういうことであったか聞き、きのう答えてくれた子どもたちを中心に、みんなに思い出させている。前時の学習内容